巴里祭（1933）

QUATORZE JUILLET

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 91分
初公開日 1933/04
公開情報 劇場公開
映倫 G

【解説】

「巴里の屋根の下」を純化させたような、愛らしい初恋の物語。そして、パリ下町の（すべてセットで撮られた）情緒豊かな生活描写……。

７月１３日、革命記念日前日の慌ただしいモンマルトルの裏通り。アパルトマンの窓を一つ一つ覗くカメラが窓辺にたたずむ花売り娘のアンナを捉える。うっとりと祭りの期待に胸を膨らませ……。が、突然、身を引いて窓を閉める彼女。ほとんど下着に近い姿を向かいの若者ジャンに見られて慌てたのだ。カーテンから顔を覗かせしかめ面をする少女。肩をすぼめる若者。石畳の道が遊び場の子供たちは一台のタクシーを隠れん坊に使っていて、思わず警笛を鳴らす。と窓からどやしつける若者。彼は運転手と分かる。しばらくして再びクラクションの音。また怒って顔を出すと、今度はアンナのお呼びである。その晩は二人でダンスを楽しんで帰り道、にわか雨に祟られ、軒下で雨宿り。しっかと抱擁し恋をささやく彼らだった。が、ジャンが部屋に戻ると、昔の恋人ポーラが待っていて、彼女の誘惑に抗しきれない彼。一方でアンナは、夜空を見上げながら夢見るように幸福の余韻に浸るのだった。巴里祭当日の朝。ジャンの部屋に女の影が……。が、それは下宿のおかみさん（実は彼女と泊まり込んだポーラが争っていたのだが）。そして、ジャンを訪ねたアンナはポーラの存在に、脱ぎ捨てた華美な着衣で気づき、外へ駆け出す。遊んでいる子供にぶつかり、一緒に泣き笑い。そこへジャンがやってきて喧嘩別れとなる。その夜、長く患っていた母が急死し、悲しみにジャンの名を呼ぶアンナだったが……。ヤケになった彼はポーラたちのカフェ泥棒の片棒を担ぐ。そして、それをアンナに見つかるが彼女は彼を逃がし、女給の職を馘になる。しかし数日後、花を乗せたアンナの手押し車とジャンのタクシーが衝突。おりしもあの日のような雨が……。今度の雨宿りは彼らにより確かなものをもたらしたようだった。可憐の一言に尽きるアナベラのアンナ。Ｍ・ジョーベールの音楽も忘れ難い名作である。

【クレジット】

監督	ルネ・クレール	Rene Clair
脚本	ルネ・クレール	Rene Clair
撮影	ジョルジュ・ペリナール	Georges Perinal
音楽	モーリス・ジョーベール	Maurice Jaubert
出演	アナベラ	Annabella
	ジョルジュ・リゴー	George Rigaud
	レイモン・コルディ	Raymond Cordy
	ポーラ・イルリ	Pola Illery
	レイモン・エイムス	Raymond Aimos
	ポール・オリヴィエ	Paul Ollivier

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.